

新刊日曜水曜		
第一千五百百七十四		
料理屋に引かへて		
自動車屋のホクく		
晝夜兼行の六十台の貸切車		
十日間で六千圓の収入		
選舉補正の高唱が相當に徹底		
せるものゝ如く更に加へて其の筋の嚴重なる監視取締が縣下のトップを切つて逆反者を挙げられた石城地方は會てない沈靜な選舉氣分から日頃消衰にさへ陥らんして萎縮せる人々の遊興殊に謂所有士連の料理店人が殆んど皆無で平町花柳界の如き氣の毒な閑散を呈してゐるが之れに引かへて多忙なものは貨切自動車業		
余りの圖々しさを断はられて		
昨十六日夜傷害沙汰		
平野伸間町一四露店酒清原 くに(尾)は内線夫藤谷鶴治四 と十四年間同棲し鶴治が浪 花節語りを渡世にする不在を すつてゐたところ同町字三丁 日居住興行小銀政勝(三毛) が鶴治の不在と見て屢々くに 方に出入し遂に同人と情交す るに至つたが其れとは知らね 鶴治が先頃歸宅の際不法にも の後を大手を振つてくに方に 采配を取り同婦の長女(三毛)を 外三兒を残して家出した		
現金を盗んだ上に		
病妻を置去り		
内郷に家出二人		
内郷の宮宇町田高橋はるえ		
署署に検舉されて取調べ中		
吾等の望む		
縣會議員		
(3) 大森勇氏談		
東日紙の本縣版の縣議候補 大觀に各候補者の政見が發 表されるが何れを見ても 大同小異、似たり寄つたり のものだ、彼の政見を標準 として一票を入れる譯には 行くまい、政友か民政かの 政黨によつて投票するには 縣會に關して無意義だと思 ふ、近頃立會演説と云ふこ とが流行してゐるが演説で政 治家の値段をきめるのは大 間違だ、其れには幾多の實 例もある、それならどんな 人かと云ふに困つた問 題だ、平素の行動から其の 人の信用程度を算出して利 權済りなどせぬ人、縣議を 看板に勝手なことをせない 人、公約を無視せぬ人を望 む、先頃守農林次官が來 られた時話された如く正し きものが總てに於ての最後 の勝利者である。世の中が 段々組織的になるに伴れて 縣議諸君の手腕力量的價値 が下つて來る様に思はれる 斯く考へて縣議には平素の 行動から其の信用程度を算 出し眞面目な人が欲しい		
() 取表		
() 選縣議候補點		
() () 昭和十年九月廿五日改		
() () () 候補者氏名		
町村別 有権者 無権 投票		
平 4,297		
飯 657		
鹿 389		
江 1,239		
豊 787		
高 544		
夏 550		
神 谷 694		
草 野 923		
大 浦 864		
四 倉 1,443		
大 野 782		
平 窪 630		
赤 井 1,325		
七 小 川 448		
下 小 川 458		
川 前 632		
三 澤 561		
坂 渡 317		
永 箕 514		
好 間 2,229		
内 郷 4,721		
湯 本 2,667		
磐 崎 1,196		
上 遠 野 923		
入 遠 野 845		
田 人 1,058		
川 部 755		
勿 來 1,624		
錦 690		
山 田 658		
植 田 1,159		
渡 邊 416		
泉 792		
玉 川 482		
小 名 濱 2,143		
合 計		

商業

給餌一ツ

(下) 鮎の池中養殖に研究家の経験談
そして夜は練餌を池の中に沈めて置く、

撒き餌はサナギ粉、飼のし粉、ぼり粉、コヌカやフスマなど、練り餌は麥粉、サナギ粉、ほし餌の粉などがよい

その外そばやのダシガラや石あか、コケの類など外の魚類の食べないやうなものもどしき食べる、殊に二寸位の仔育ち期にはマグロなどの残身を骨をとつてきさんで與へると成績がよ

い特に一寸位に育ち期の

発育状況がその後の発育を

支配すること重大であるか

ら二期にせいくマグロそ

の他生魚の残身などを與へ

る必要がある、

ところで九月の二百十日後

卵を持つころは一尾三十枚程

度まで発育確實で鮎は他の魚

類に比し需要も多く簡単な繁

殖法しかも高價に賣れる有

利なる養殖事業であると同氏

の話である、

鮎の養殖は餌のやり方へ

コツを覚えれば鮎などよりも

むしろ容易で、

それには回数を多く規則的

に與へることであつて不規

則であると餌がほしいとき

に餌が食べられなかつたり

するやうなことのないやう

にするのが最も大切である

尙ほもう少し早くから池に

移せばもつとく發育する

ことも判りましたので來年

は五月中に仔鮎を放つて見

るつもりですと「終り」

◆一級印刷物も御引受致します
新しいわき新聞社 印刷部

債券 公債 両替 金融

多田井質店

耳鼻咽喉科専門

医學士 鈴木 正男

平町田町(電話五八番)藤田女学校前

電三〇七

会長 清野キヨ

平町南町

電三〇七

会長 清野キヨ

平町屋紹

電三〇七